



いわきの子

岩城小学校
学校便り
第14号
R4.5.27
文責：佐藤

〈学校教育目標〉「ふるさとに誇りをもち たくましく生き抜く 子どもの育成」

避難訓練 ～いのちを守る岩城小～

「県防災の日」の前日25日（水）に、消防署岩城分団の職員の皆様のご協力をいただき、今年度1回目の避難訓練を震度6の地震を想定して実施しました。今回は、避難経路や避難場所を確認したり、冷静に、そして安全に避難できる態度や能力を養ったりすることをねらいとしました。その後の津波に備えて、高台への二次避難も行いました。

非常ベルが鳴って机の下へもぐった後、揺れがおさまったことを確認してから、「おさない かけない しゃべらない もどらない」の約束に気を付けて玄関前へ避難しました。暑い中ではありましたが、全員岩城少年自然の家への道路の入り口までがんばって歩き通すことができました。



最後に、消防署員の方から講評をいただきましたが、残念なことに「ふざけて笑っている人がいた」とのご指摘がありました。「訓練でできないことは本番でもできない。備えが必要です。」「学校では先生方がみんなに指示を出してくれますが、お家ではどうしたらよいか家族と避難する場所と方法を確認してください。」とお話しになりました。家庭で話題にさせていただけたのでしょうか？

6年生伊藤**さんの「おかしもを守って安全に避難することができてよかった。1年生のことをよく見て歩くことができた。」という振り返りは、上級生としての思いやりが感じられました。今回本気になれなかった人たちが、この発表を聞いて次はしっかりがんばってくれることを期待したいと思います。

チャレンジデー（なかよし活動）

5月25日（水）は、“チャレンジデー”でした。今年度は活動内容を子どもたちに任せてみようということで、「なかよし活動」を行うことにしました。

昼休みと長休みに分けて、中庭、グラウンド、体育館の場所を上手に使って、各班の6年生が計画した運動遊びを行いました。おにごっこ、だるまさんの1日、なわとび、ドッジボール、バレーボールなど、1年生から6年生が遊べるように考え、実際に遊びながらもルールを変更するなどして無理なく活動したようです。他の班の様子を見ながら談笑している子どもたちもいて、ほのぼのとした雰囲気でした。



【6年生の振り返りから】

- ・低学年が楽しめるようにおにごっこをしました。2年生が1人で「おにやる！」と言ってきたのがびっくりしました。低学年とこれからも楽しく班で活動したいと思いました。そして、1年生も最後に「楽しかったよ」と言ってくれて、うれしかったです。（小野**）
- ・工夫したことは、なるべくみんなにボールがいくようにしたことと、低学年はあまりバレーのルールを知らないから、普通のバレーではなく輪になってボールを落とさないようにレシーブするというルールにしたことです。（高橋**）
- ・説明やボールでゲーム開始の時は難しかった。1人1人が転がす時にボールを手渡しすることを忘れないようにした。「楽しい」と言ってくれたり、「もう1回やりたい」と言ってくれた人もいてよかった。ただ、1回しかできなかったので、もっとてきぱきと動くことを次に生かしたい。（前川***）
- ・なかよし班のみんなが楽しめるためのやり方や、1、2年生のためにどうすれば楽しめるか考えた。なかよし班としての活動があるので、これからもなかよし班をまとめられるようにがんばります。（堀井**）

5月の連休明け、（冬眠から覚めて）活発に活動を始めた岩城小学校の一員（ミドリガメの“ジョニー”です。子どもたちの人気者なんですよ！

人影を感じたり、飼育箱の脇に手を当てたりすると餌をもらえると勘違いしているようで、反応するんです。

